

1990.11.25

「アーヴィング・マッシュ」に参戦して 飛田 雄一

飛田 雄一

開だが、その姿勢はおして知るべしである。

屋外集会では、実行委員会の田畠さん、原

さん、「遙かなる旅・戦後史の谷間から」を書かれた山根昌子さん、韓国外大の朴昌熙さ

去る11月11日、長野県松代市で右のような

集会が開かれた。私はかねてから、太平洋戦

争末期に天皇が生きのびる先として大本営が

作られたという松代を訪ね、地下壕等を実際

に見てみたいと思っていたが、この集会を

機会に訪ねることにした。神戸学生青年セン

ターの朝鮮語講座の生徒でもあつた宝塚市の

中学校教師の近藤喜男氏を中心となつた兵庫

県教職員組合宝塚支部教育研究委員会平和と

民族の教育部会主催の「『即位の礼』『大嘗

祭』に反対し天皇制を考え、強制労働従事さ

せられた朝鮮人に思いをはせる旅」に便乗さ

せてもらい、十一人が車二台で松代に向つた。

午前六時過ぎに宝塚を出発し、一路松代へ。

一時からの集会には少し遅れて参加した。第

一部は地下壕の中での集会だ。大阪の民族文

化研究会のメンバーによるコサ(告禪)、黒坂

正文さんの歌「アボロジーズ(謝罪)」、アピ

ル等があつた。壕内の集会は現在公開され

ている五〇〇㍍の壕の終点の部分で開かれた。

公闘のために危険地域を修復して公開された。

この修復の方法については地元の保存運動ク

ループは現状を改善しすぎたものであると反

発している。五〇〇㍍の部分には電燈もつけ

られている。また、その五〇〇㍍以外の部分

は、入れないように柵が作られている。

近藤喜男さんの宝塚安倉中学は一昨年、修

学旅行で松代大本営を訪ねて、生徒たちに大きな感銘を与えたとして新聞報道もされたが、

そのときは上の地図のほとんどの部分を歩く

ことができたという。先の集会の日は、実行

委員会が当局と交渉して非公開の部分を開け

てもいい、壕内での集会の後、西側の出口ま

でいつてそこで屋外集会を開いた。特別に開

けてもらつた部分は、公開されている部分の

よう地面もきれいに整備されてなく、一部

崩れているところもあり、より当時のおもか

げをとどめているという。百聞は一見にしか

ずというが、実際に松代大本営の地下壕に入

つてみると迫力がある。松代にはこの地下壕

の他にも表のように多くの施設があり、象山

地域も含めて全体で甲子園球場の四倍の面積

があると言われている。私が実際に歩いたのは公開部分の五〇〇㍍と特別に開けてもらつたという部分だけだが、その巨大さが実感さ

れた。入口の掲示板は公開に際して新しく作られたものだがこの工事にたずさわった七千人といわれる朝鮮人の「朝」の字もでてこない。

長野市の観光課が担当している象山地区の公

表 大本営等工事概要

(佐賀工事局等)により作成)							
場所	工事命令	用途	面積	堀数	出来高	仮設建物	
松代町栗山	マ(10.4.)	政府・NHK	19,369m ²	20本	80%	135棟	
西条村白鳥山	〃	大本営	8,706	5	90	86	
豊栄村皆神山	〃	食料庫	6,007	6	100	30	
須坂町猪田山	マ(3.23)	通信施設	2,960	3	70	39	
都住村雁田山	マ(6.8.)	〃	—	—	0	7	
須坂町臥竜山	〃	〃	—	—	0	18	
清野村妻女山	マ(3.23)	受信施設	1,502	3	65	16	
荷白鉄道トンネル	マ(7.12)	皇太子・皇太后	トランセル 3本	—	0	0	
雨宮県立東峰山	〃	印刷局	—	—	0	0	
西条村猪井	マ(3.23)	測量下・官内省	表1のとおり	—	90	—	
西条村弘法山	マ(7.12)	貢所	—	—	坑口	4	
安茂里村小市	6.26	源軍省・軍令部	?	1	約100m	?	

1990.11.25

だけ終わつて少し残念だつたがいろいろな地域からいろんな思いをもつて松代の集会に参加してきていた。二次会に誘われ、私は地元の実行委員会の人、東京の和光大学のゲル、一ノ瀬、韓国からの留学生たちと街へくりだし、今年名古屋で初めて開かれた「第一回朝鮮人中國人強制運行強制労働を考える全国交流集会」の第二回大会が来年7月27～28日、兵庫県で開かれことが決つていてるので兵庫を代表して(?)私が飲みにいき、午前二時まで喋つていたのである。

翌日、松代大本營の天皇が入るはずであつた壇にも行こうということで、現在地震観測所がある舞鶴山へ行つた。松代大本營といえがこというようにテレビなどでよく紹介される、コンクリートの階段の所である。階段を降りて突き当りの奥は精密な地震計等があるというところで入れてはもらえない。外に出ると、空襲がないときに天皇が暮らすことになつていた建物がある。四五年前の物とは思つて立派な床間も見える。松代大本營には全体で十二カ所施設があつたが、爆撃で天皇と皇太子が一緒に死んだら具合が悪いこと、別々に住むことになつていていたようだ。

我々の一行は、欲張つた計画を立てていて、松本市里山辺にあるもうひとつ地下工場跡も訪ねることになつていて、案内して下さる

人が都合がつかなくなり『長野県の教育に夜明けを』(78年、池田練三著)の地図をだよりに直接訪ねることにした。松代大本營と同じく七千人の朝鮮人が働かされたという三菱航工機会社の地下工場跡である。松本市の市街地から2キロほど東にあるはずだ。めぼしをつけて車を走らせ、地元の人聞くと一人目の人はもう少し西側だという。ウロウロしているとキノコ取りの老人が向うに見える煙突の手前あたりではないかと教えてくれる。また少し行くと、畑で化学肥料を蒔いている農民がいて、川沿いに朝鮮人の飯場があつたこと、そのあたり一帯にドーム状の半地下工場があつたこと、そして地下工場の入口がスクラッフル工場の奥にあることを教えてくれた。また、車に乗つてソロソロと山の斜面を見ながら行ついたら同行のセンター朝鮮語講座の中村みはるさんが「あつた!!」という。スクラップ工場のちょうど車がうず高く積まれている所の少し上に、穴があいている。穴は九ヵ所あつたらしいが現在は一ヵ所だけが残つている。そこだけが岩盤がむきだしになつていていたらしい。

昼食の後、その地下工場跡を訪ねる。かなりの崖の上にあり、一部ロッククライミングのものもある。同行の丘原朝鮮関係研究会の鄭鴻永さんは歳をかえりみず(失礼!)、登り始める。自転登山家の私も勿論登った。入口には後に作つたと思われるブロックが積み上げられ木の戸がついている。「外国人強制労働長野県調査團松本班」が一九九〇年七月七日に作ったこの地下工場跡が強制労働の遺跡であることを書いた看板がある。中に入るとすぐに倉庫の跡のようなものがあり、またしばらく行くともう少し大きな倉庫のようないものがある。キノコを栽培したのが発砲スチロールのケースがあつたり足元に美味しそうなキノコもひとつ発見した。トンネルの条件を利用してキノコ栽培のために作つた建物の跡ではないか、入口のブロックおよび戸も、それ以上奥に入るにはもつと本格的な装備が必要なようで、我々はそこで断念して外へ出た。家に帰つてからもう一度『...夜明けを』を見ると「倉庫」の場所に「宇宙線測定機」とあり、「図説・松代大本營」(87年、和田登高著)にある「この地下工場の図面を見ると「信大宇宙線? 建物あと?」とある。すると二三年前にすでにそれらしい施設がありそれを後に誰かがキノコ栽培に使つたのではないかとも思われる。ブロックもキノコ栽培の機密性と関係ないようだ。

自力(?)で地下工場の入口を発見できたことは幸運なことだと、鄭鴻永さんの言葉に我々は満足し、一路宝塚に向つた。一泊二日の強行軍であつたが、充実した旅であつた。